

ユニセフ（UNICEF：国際連合児童基金）は世界の子どもたちの命と健康を守るために活動する国連機関です。第二次世界大戦で被災した子どもたちへの緊急支援を行うため、1946年の第1回国連総会で創立されました。

現在ユニセフは「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」で定められている子どもの「生存」、「発達」、「保護」、さらに「参加」の権利を実現するため、保健、水と衛生、栄養、教育への支援、困難な状況にある子どもの保護、緊急事態下の子どもの救援をその国の政府やNGO（非政府組織）、地域の人々とともにを行っています。

インド 繁栄の陰で取り残された子どもたち

アグネス・チャン・日本ユニセフ協会大使は2007年6月インド・マハラシュトラ州の州都ムンバイを訪れ、スラムに住む子どもたちの実情を視察しました。水不足や下水設備がないため、スラムに住む子どもたちは衛生面や、健康面で深刻な問題を抱えています。またインドでは、貧困が子どもたちの命や教育の機会を奪うという従来からの問題に加え、近年の経済成長にともなう巨大な消費社会の出現により、児童労働や性的搾取などがより深刻な問題となっています。



© k.kaneko

マハラシュトラ州のスラムの状況

- ・780のスラムが集中し、1,120万人が生活
- ・6割以上の子どもが栄養不良
- ・75%の家庭には井戸などの水道設備がない

栄養不良の姉妹

拾ってきたゴミ袋や板切れで作った1畳半ほどの家に親子4人で暮らすカンプレさん一家。平均体重の半分しかない長女クーシュレヤちゃんは、3歳になった今もまだ言葉を話すことができません。食事は日に1度。両親が日雇いのゴミ拾いの仕事にあぶれた時は一食もありません。2人が仕事に出かけると、やはり平均体重の半分しかない1歳のマデシュワリちゃんは、摂氏50度近くになる家の中で食事やトイレ



© k.kaneko

の世話をしてくれる人もいません。ユニセフの訓練を受けたNGOのボランティアが泣き声をあげていた姉妹を発見。ムンバイ市とユニセフが協力して提供する栄養不良児治療サービスを受けられるようになりました。

学校へ通えない少年

チャンダンが9歳の時、母が亡くなり、父は家出しました。それ以来チャンダンは兄弟の面倒をみるため、学校に行くのをやめ、毎日リキシャを洗ってお金を稼ぎ、生計を助けています。一台洗うと10ルピー（約30円）になります。チャンダンはとても勉強したがっていました。夜間学校に半年通うためには、900ルピー（約2,700円）が必要で、彼にとっては大変な金額です。ユニセフはチャンダンのように教育の機会を奪われた子どもたちに、再び教育を受ける機会を提供するため、夜間学校の開設・運営を含め、1人でも多くの子どもたちを学校に通わせるよう支援を続けています。



© k.kaneko

（※リキシャ：三輪タクシー、語源は人力車）

スラムの生活環境を改善するマイクロ・プランニング・プロジェクト

ユニセフはインド・マハラシュトラ州で州政府、現地NGOと協力してスラムの生活環境を改善します。スラムの人々が自らの意志で保健、栄養、衛生、教育などの重要性を理解し、仕事を得る方法やお互いが支えあう方法を学んだり、子どもたちが未来を切り拓くことができるよう支援します。

活動の例

- ・適切な施設での出産・出生登録の推進・出生証明書の発行
- ・栄養不良が深刻な子どもに対する適切な栄養補給
- ・子どもに必要な予防接種の実施
- ・初等教育の提供（夜間学校の開設）

～親子で参加する外国コインの仕分け活動～

「日本で両替することができずに眠っている外国コインを有効に利用することはできないだろうか」という声に答えて、「ユニセフ外国コイン募金」は1992年にスタートしました。宮城県では、1998年に仙台空港国際線税関検査場に「ユニセフ外国コイン募金箱」を設置しました。国際線を降りた方が通るところにありますので、注意してみてください。

日本ユニセフ協会では、民間企業5社の協力のもと、集まった外国の通貨を海外に輸送し、ユニセフの活動資金として世界の子どもたちのために役立てています。

宮城県支部では、毎年「夏休みユニセフ教室」として、外国コインを国別に仕分けする活動を行っており、今年で10回目です。テレビや新聞でも取り上げられました。

仙台空港の募金箱から回収したコインと紙幣の仕分

け活動は、8月18日(土)みやぎ生協文化会館ウィズにおいて、小学生・中学生・高校生・大学生、留学生、ユニセフボランティア等、40人が参加して行われました。この活動は「外国のコインを仕分けする」ことが中心ですが、世界各国のコインに接することで、世界の見知らぬ国やその国で暮らす人々のことにも思いを馳せることができました。この日は中国・韓国・インドネシア・ルーマニアからの留学生（宮城教育大学、東北大学、宮城高専）にも参加していただき、それぞれの国のことや日本で勉強しての感想、将来への夢や参加した子どもたちへのメッセージなどもいただきました。特にルーマニアの民族衣装の披露と「ルーマニア〇×クイズ」ではみんなが盛り上がりました。集計・換算の結果は418,037円（去年は316,834円）でした。51ヶ国の通貨があり、特にアメリカ・中国・韓国などが多かったです。

外国コインの流れ

外国コインの回収

外国コインの仕分け活動

日本ユニセフ協会

各国の銀行

ユニセフ本部（ニューヨーク）

ユニセフ現地事務所

150以上の国と地域へ



今年も参加しました



留学生も参加しました



ルーマニアの民族衣装



人気のコイン博士



空港で回収しました

お家で眠っている外国コインがありましたら、宮城県支部へお寄せください。「メタル」として宅配便や郵便で送付できます。また、みやぎ生協各店舗サービスカウンターへお持ちいただいてもけっこうです。

『私もボランティア・あなたもボランティア』

2006年にユニセフリーダー養成講座を修了して以来、何かできないだろうかと考えていました。得意なこともなく、今まで大勢の前で話す機会もなかったのです。そこで「まずは参加してみて活動を知ろう」と思い立ち、今年1月、白百合学園の出前講座を見学に行きました。その時の私の目には、講師を務めるボランティアの姿が、別世界の人のようにキラキラと輝いて映りました。生徒たちと一緒に聞いて入るうちに、ふと「この子たちは全ての意識をボランティアに傾けて聴いているし、ボランティアの側には『伝える』という役目がそこにあるのだ」と思ったのです。先生も生徒も、私たち自身も、「それぞれの心に何かが届けられ、尊い時間を共有した」という気持ちでいっぱいになりました。

その後、何度か出前講座に参加する機会があり、気がつく私は蚊帳を手に、水がめを手にして、児童生徒の前に立っていました。いざ、その場に立つと生来の引っ込み思案が顔を出し、緊張で思うように話せなかったり、必死の説明は子どもたちの元気な声にかき消されてしまったりと、我ながら実に頼りない結果の連続でした。それでも時折、そばに寄ってきて「蚊帳がないと、蚊に刺されて死んじゃうの？」などと感じたことを語りかけて

くる子がいます。「ちゃんと伝わっている」と胸が熱くなる瞬間です。そして「この次は自分が知る限りのことをひとつでも多く伝えよう」という思いにつながっていくのです。

思えば長い年月をかけ、先輩ボランティアのみなさんがこうしてたくさんの歯車をゆっくりと着実に回してきたのではないのでしょうか。「伝わった」と思う瞬間は、歯車の歯をカチッとひとつ回した瞬間のようであり、小さな歯車から大きな歯車へとたくさんの力が合わさっていき、大きな力となってユニセフ全体の目標とする方向へゆっくりと動くことになると、私は感じています。

勇気を出せば誰もが、ひとつの歯車をカチッと回すことができるのです。ボランティアに登録したのは、心の中に何かを動かすお手伝いをしたいという気持ちがあったからだ、と、振り返っています。

『あなたもボランティア!』しませんか?

(ボランティア 梅津周子)



ユニセフカードとギフト 秋・冬号 2007

ユニセフ製品は、定価の約50%がユニセフの支援する開発途上国における現地活動資金等として、世界の子どもたちのために役立てられます。カタログご希望の方は宮城県支部へご連絡ください。お送りします。



「お正月」年賀状
(高橋 三千男)
日本の伝統と新しい感覚の爽やかなハーモニーのハガキです。
¥500 (10枚)



「クリスマス・ミニ」カード
(スティ・マッカラム)
プレゼントや花束に添える、ぴったりのミニサイズのカードです。
¥1,000
(カード5種類各2枚・封筒10枚)



「ミッフィー・カード」カード
(ディック・ブルーナ)
絵本作家ディック・ブルーナさんの描きおろしによるデザインのカートです。
¥1,800
(カード・封筒各10枚)



「トートバッグ平和の鳩」
平和の象徴、鳩とオリーブのモチーフが刺繍された小ぶりのトートバッグです。裏は防水加工、ポケット付き。
¥3,000円 中国製
(綿100%) (23.5×23.5×12cm)

利用者の声

プレゼントに最適! ～ カタログから選ぶ楽しみ～

娘の誕生日には、ユニセフのカタログからプレゼントを選びます。かわいいものがたくさんあり、いつもあれこれと迷いますが、今回はこの「スクールベアー」を選びました。リュックを背負わせたり、帽子をかぶせたりと、娘は「スクールベアー」に夢中です。

抱き心地が抜群です。……森 徳子



森 彩香ちゃんのお気に入り「スクール・ベアー」



付属品(帽子・ズボン・リュック・布製本)は着脱可能。
4,000円 中国製
(ポリエステル100%) (35cm)

お知らせ

これからの予定です。皆様の参加をお待ちいたしております。

◆高橋邦典写真展

「ぼくの出会ったリベリアの子どもたち」

戦争が終わっても…

報道写真家・高橋邦典の心は、子どもたちとともに…

美しい魂の目が捕らえた写真たちのことばを感じてください



期間：2007年9月30日(日)～10月14日(日) 10:00～18:00 (10月6日のみ16:00まで)

会場：中本誠司現代美術館 (仙台市青葉区東勝山2-20-15) 入場：無料

主催：グループ エルモリア ※日本ユニセフ協会宮城県支部も後援団体として参加しています

◆報告会『報道されない素顔～パレスチナの子どもたちと4年半～』

NPO 法人「地球ステージ」のスタッフとして活動している寺畑由美さんが、パレスチナより一時帰国しての報告会。ガザ地区ラファで暮らす人々の生活や、毎日の子どもたちとの活動の様子を、映像をまじえてお話しします。



日時：2007年10月25日(木) 18:40～20:30

会場：仙台市民活動サポートセンター・セミナーホール (仙台市青葉区一番町4-1-3 022-212-3010)

参加費：無料 事前に参加申込みをお願いします (ファックス・電話・メール等)

主催：日本ユニセフ協会宮城県支部

◆みやぎ生協 ユニセフ・パネル展

『忘れられた子どもたち～アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使のスーダン・ダルフル視察記録』

●11/8 (木)～11/12(月) みやぎ生協六丁の目店

●12/4 (火) のみ みやぎ生協八幡町店

●11/22(木)～11/30(金) みやぎ生協文化会館ウィズ

●11/15(木)～11/19(月) みやぎ生協松島店

◆国際シンポジウム「アジアにおける子どもの人権保護と社会参加の支援」

日本をはじめアジア諸国で直面している子どもの食の貧困化、育児放棄、いじめ、虐待、暴力など「子どもの人権保護」と社会参加の支援についての報告や討議を行います。

日時：2007年12月1日(土) 12:30～16:30 会場：仙台アエル5階・多目的ホール 入場：無料

主催：尚絅学院大学 後援：外務省、国際交流基金、日本ユニセフ協会、同宮城県支部、みやぎ生協、ほか

参加者募集！「ユニセフ・ハンド・イン・ハンド」

12月16日(日)11:00～13:00

みずほ銀行前・フォーラス前 (仙台市青葉区) で街頭募金活動を行います。

※宮城県支部までお申込みください

※学校や企業・団体での単独開催が可能です。宮城県支部までお問い合わせください。募金箱や各種ツールをお届けします。



ユニセフ募金報告 (2007年6月～8月：宮城県支部預かり)

〈一般募金〉

仙台市立加茂中学校

涌谷町立笹岳小学校 6年生

山元町立坂元小学校 みつば児童会

仙台市立四郎丸小学校

名取市立増田西小学校あおぞら児童会

色麻町立清水保育所 愛育会夏祭り

南三陸町立志津川小学校

白石女子高校 吹奏楽部

宮城県総合衛生学院 教育振興会

仙台国税局診療所

東北大学生生活協同組合

ミートショップさくらい

河北新報社寄託金(17件)

(株)豊栄堂印刷所

みやぎ生協幸町店こ～ぷ委員会 環境デー

みやぎ生協高砂店一周年祭

みやぎ生協六丁の目店フリーマーケット

みやぎ生協岩沼店ちびっこフリーマーケット

(敬称略・順不同)

他にも、個人の皆さまからのご協力をいただいております。

～ご協力ありがとうございました～

(財) 日本ユニセフ協会宮城県支部

〒981-3194 仙台市泉区八乙女4-2-2 みやぎ生協ウィズ内

Tel 022-218-5358 Fax 022-218-5945 E-mail:unicef@miyagi.coop.or.jp

月曜～金曜日 10:00～16:30

URL <http://www.unicef-miyagi.gr.jp>

宮城県の会員数

団体： 3

一般： 193

学生： 14

10月22日よりホームページ公開予定